

---

プロジェクト **金融資産の減損に関する会計基準の開発**

項目 **第 533 回企業会計基準委員会で聞かれた意見**

---

## 本資料の目的

1. 本資料は、第 533 回企業会計基準委員会（2024 年 9 月 18 日開催）において、ステップ 4 を採用することが見込まれる金融機関の代表者から聞かれた意見への対応について聞かれた意見をまとめたものである。

## 聞かれた意見

### （全般的な意見）

2. 資料に示された事務局からの提案の方向性に賛同する。
3. 新しい会計基準を導入する際にコストや負荷が発生することは避けられないと考える。ステップ 4 に関する検討においては、これまで多くのオプションが提案されており、また、オプションを設けることにより、比較可能性が損なわれることになるため、会計基準に多くのオプションを導入することには否定的である。
4. 新たな会計処理を要求する場合、コストが便益に見合うかが重要であると考え。その検討に際して、オプションを設けることによる比較可能性の低下のほか、オプションが多すぎることによる会計基準の信頼性の低下もコストとして考える必要がある。
5. 補足文書の記載については作成者の利便性及び財務諸表の比較可能性を向上させるという観点と、具体的に記載することで実務を拘束する可能性があるという観点の両方を踏まえた慎重な検討が必要と考える。

### （複数シナリオの考慮を含めた結果の確率加重に関する意見）

6. 最も可能性が高い中心となる将来予測シナリオのみを考慮した状況において、オーバーレイ調整を行うと、最も可能性が高いシナリオを否定することになるとも考えられる。このため、オーバーレイ調整の意義について確認したい。
7. オーバーレイ調整については引当を増加させる方向、減少させる方向の両方の調整を想定しているのか確認したい。

8. オーバーレイ調整について、IFRS 会計基準を導入している海外の金融機関などでは、定性的な要素を説明したうえで保守的な方向で調整していると認識している。このため、我が国でもオーバーレイ調整が導入される場合には、実務上は保守的な方向で使用されることが考えられる。
9. 補足文書において、ステップ 4 を採用する場合に対応するような文案を作成することを予定しているのか確認したい。

**(ローン・コミットメントへの引当に関する意見)**

10. ローン・コミットメントに対する引当については、これまで金融商品会計基準等では明確な定めがないことに加え、旧金融検査マニュアルにおけるローン・コミットメントに関する金融監督上の取扱いは会計上の引当の考え方とは異なっていること、さらに各金融機関においてローン・コミットメントの重要性は異なっていると考えられることから、各金融機関で対応の状況は異なっていると認識している。このため、精緻に引当を算定するには数年のデータ整備が必要であると考えられることから、データ整備の負担や既存のデータの利用可能性を確認したうえで検討を進めることが必要と考える。
11. ローン・コミットメントの引当の算定に際して重要となる引出率については、どれくらいの期間の実績に基づいてどのように算定すべきかという点を検討する必要があるものの、時間があれば解決可能な論点であると考ええる。
12. ローン・コミットメントへの引当に関する懸念は、監査に関する懸念なのか、コストに関する懸念なのか確認したい。

以 上